232 数種コナダニ類の分散に及ぼす温度の影響

松本克彦（東京女子医大、総合研究所）、山浦 常（東京女子医大、東洋医学研究所）

The effects of temperature on the dispersion in some species of grain mites.

Matsumoto Katsuhiko, Yamaura Hisashi

サトウダニ、ケナガコナダニの飼料からの分散は、低温側で、コオノホシカダニは高温側で活発となる。イエニクダニ G.d.、オソアシプトコナダニ A.i. の分散に及ぼす温度の影響を観察した。G.d. では、1 日目はコオノホシカダニと同様に高温側（35℃）の分散が活発であったが、2、3 日めで急激に減少し、25℃の分散が最高となった。3 日後の飼料内のダニ数は、25℃以下のものに比べ高温側（30℃、35℃）のダニ数が減少し、ヒポプスの出現率の増加がみられた。特に、35℃で生存しているダニはヒポプスのみであった。A.i. も、やはり35℃の分散は、1 日目で最高であったが、以後急激に減少した。25℃以下の分散は、低温でやや低い傾向を示したが顕著な差はみられなかった。G.d.、A.i. の分散は高温側で活発となるが、高温に対する両種の抵抗性は他の種類より低かった。

233 札幌市近郊におけるスズメバチ類の発生動態とその駆除、1995年

高橋 健一（北海道立衛生研究所）

Outbreaks and control of hornets in Sapporo, 1995

Takahashi K.

1995年に札幌市に寄せられたハチ類に関する相談件数は1900件を越え過去最高であった。札幌市内で駆除されたスズメバチ亜科のうち681例について種の同定を行ったところ、ケブカスズメバチが240件（35%）で最優占で、次いでキオビホオナガスズメバチが184件（27%）、コガタスズメバチが170件（25%）で、これら3種で全体の87%を占めた。駆除件数は、広大な山林を後背地に抱える地域で多発した。駆除の対象となった巣の営巣場所は、住宅のひさしなど人工物が57%、樹木が40%、その他（土中など）3%であった。刺傷被害は43例で、キオビホオナガ20例、ケブカ16例、コガタ5例、その他2例で、被害が発生した営巣場所は、樹木23例（うちキオビ18例）、住宅などの人工物15例（うちケブカ11例）、その他5例であった。過去7年間の駆除状況を比較すると、後背地に山林を抱える地域でのケブカを中心とした駆除件数の顕著な変化、および、庭木を中心に営巣するキオビホオナガ、コガタの駆除件数の増加がみられた。